平成２７年度　生涯学習調査・学習プログラム開発事業

学習プログラム開発
実践報告書

平成２８年３月

公益財団法人茨城県教育財団
茨城県水戸生涯学習センター

はじめに

現代社会は，異常気象や環境破壊，少子高齢化，食の問題，外交問題，エネルギー問題など，多くの課題を抱えています。これらは，この時代を生きていく上でどこかで対峙していかなければならない問題です。これらの問題は複雑に絡みあい，従来の枠組みでは解決できなくなってきています。個人のレベルで考え行動することも重要ですが，市民がコミュニティとつながり地域全体に広げ，地域を変えていくことがますます必要なのではないでしょうか。そのためには従来の趣味教養主体の生涯学習ではなく，現代的課題や地域課題の解決に向けた生涯学習のあり方を問い直す時期にきていると考えます。

茨城県水戸生涯学習センターでは，茨城県内の公民館・市民センター等で企画されている講座の実態を把握するために，平成２６年度に「公民館・市民センター等主催講座の開設状況等に関する調査」を行いました。この調査を受けて，平成２７年度に行われた学習プログラム開発事業は，前年度の調査結果から見えてきた現場の課題に対応するため，公民館・市民センター等で取り組むことができる学習プログラムを開発し実践報告書にまとめ，さらには，企画立案のサポートをするためのハンドブックを作成することを目的とした事業です。

今回作成しました事例集及びハンドブックが，「学び」を企画する多くの方々に活用されることで，「学び」を通して人と人がつながり，現代的課題や地域課題の解決につながり地域が元気になることを願ってやみません。

終わりに，本学習プログラム開発事業の実施に際しまして，快くモデル講座を引き受けていただきました各市町村の関係職員の皆様，そして，昨年度の調査研究事業から２年間，計画立案から実施後の分析，ハンドブック作成まで，ご協力いただきました宇都宮大学教育学部准教授小原一馬先生をはじめ，学習プログラム開発委員の皆様に心から感謝申し上げます。

平成２８年３月

公益財団法人茨城県教育財団
茨城県水戸生涯学習センター所長
萩野谷　茂

はじめに

目次

Ⅰ　学習プログラム開発の経過　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
　1　事業の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
　2　テーマ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
　3　事業の内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
（1）生涯学習調査学習プログラム開発委員会の設置・・・・・・・・・・1
　　ア　生涯学習調査委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
　　イ　学習プログラム開発委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
（2）学習プログラム開発（企画部）・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
（3）ハンドブック作成（編集部）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
（4）事務局内会議・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
（5）茨城県生涯学習情報提供システム「茨城の生涯学習」の活用・・・9

Ⅱ　学習プログラム開発の実際（実践事例）・・・・・・・・・・・・・・・10
　1　常陸太田市・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
　2　大洗町・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18
　3　守谷市・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 27

Ⅲ　ハンドブックの作成の実際・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 42

Ⅳ　成果と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 43

Ⅰ　学習プログラム開発の経過

１　事業の目的

近年のめまぐるしく変動する社会情勢によって，さまざまな分野で，従来とは異なった多岐にわたる課題が現れており，公民館・市民センター等を中心とする社会教育施設においても，それらの時代の変化によって生じた新たな課題に対応していくことが強く求められている。

一方で公民館・市民センター等をとりまく状況は，行政改革や市町村合併などに伴い，首長部局への移管，職員数の削減，指定管理者制度の導入，さらには統廃合などが検討・実施されており，社会教育・生涯学習の推進体制に変化がおきているのが実態である。同時に学習プログラムの開発においても予算削減，マンネリ化，高齢化，受講生の固定化などの課題が顕在化している。

本事業では，県内市町村の社会教育・生涯学習施設の事業で実施されている講座の実態調査の結果をもとに，学習プログラムの開発を実証的に行うことで，社会教育・生涯学習の一層の振興を図る。

２　テーマ

社会の変化に対応し，地域の教育力を創造する社会教育・生涯学習施設の事業のあり方について

３　事業の内容

（１）生涯学習調査・学習プログラム開発委員会の設置

本事業の実施にあたって，茨城県水戸生涯学習センター内に平成２６年度に「生涯学習調査委員会」，平成２７年度に「学習プログラム開発委員会」を設置し，事業を行う。

ア　生涯学習調査委員会

各市町村の公民館・市民センター等の講座の提供状況や課題等について調査を実施し，その結果を基に，市町村が必要としている事業について検証する。

（ア）設置期間　平成２６年５月～平成２６年１２月
（イ）調査主体　調査票によるアンケート形式の自記式調査
（ウ）調査期間　平成２６年８月１２日（火）～８月２９日（金）
※調査機関を越えて回答のあったものについても回収し，集計に加えた。
（エ）調査対象　県内各市町村公民館・市民センター等　２７９箇所
（オ）回収結果　回答数１５１箇所（回答率５４．１%）
（カ）委員構成（８名）

委員長	小原　一馬	宇都宮大学教育学部准教授
委員	志摩　邦雄	茨城県県北生涯学習センターマネジャー
委員	龍田　　理	水戸市みと好文カレッジ所長
委員	林　　雄一	まちなか情報交流センター長
委員	熊谷　智仁	取手市立白山西小学校教頭
委員	赤津　利治	笠間市教育委員会生涯学習課社会教育主事
委員	佐藤　功夫	茨城県水戸生涯学習センター企画振興課長
委員	寺門　義典	茨城県水戸生涯学習センター社会教育主事

オブザーバー　茨城県教育庁生涯学習課
協力　茨城県水戸生涯学習センター情報ボランティア

（キ）委員会実施状況

回数	日時	内容
第１回	平成２６年 ５月２７日（火） １４：００～１６：３０	事業概要説明 委員会組織について 調査方法・内容検討・調査原案作成
第２回	平成２６年 ７月１６日（水） １４：００～１６：３０	調査内容の決定 調査実施準備
第３回	平成２６年 １０月２１日（火） １４：００～１６：３０	調査結果報告 考察・分析について
第４回	平成２６年 １２月９日（火） １４：００～１６：３０	調査報告書について 学習プログラム開発について

（ク）調査結果のまとめ

・新分野の講座企画や新受講生の掘り起こしをしたい
　→講座実践が難しい（講師選定や広報などが課題）
・今後取り組みたい講座の分野
　→「家庭教育」「福祉」「防災・安全」「地域づくり」
・企画担当者が考えている必要なスキル
　→情報収集力，企画力，伝達力，ファシリテーション力
・県に期待する講座
　→「地域づくり」「防災・安全」
・地域コミュニティづくりの重視

イ　学習プログラム開発委員会

調査研究の結果を基に，公民館・市民センター等で今後活用することができる学習プログラム等を開発・実証・提案し，さらには普及活用を図るためのハンドブック作成を目的として実施する。

（ア）設置期間　平成２７年２月～平成２８年３月
（イ）学習プログラム開発数　３本
（ウ）主となる講座内容　現代的課題・地域課題を解決するための講座
（エ）モデル事業の実施

モデル市町村を選定し，市町村職員・公民館職員等と連携し，実際にモデルプログラムを実証する。

	調査結果からの選定の根拠	市町村との検討内容		開発するプログラムのイメージ	備考
		実態	方向性		
常陸太田市	「趣味・教養などを入り口としながら，地域づくりにつながる講座」を開発することで地域課題解決に資することが期待できる。	対象となる世矢公民館では，現在,「趣味・教養」の講座を年５回行っているが,「人が集まらない」「若い世代にも来てもらいたい」という声がある。	学びの場としての公民館が担ってきた役割を活かしながら，地域の魅力を再発見し，地域内の交流を促すプログラムを開発する。	「趣味・教養」などを入り口としながら，地域住民が地域づくりにむけて主体的に関わることができる講座を開発する。	・地区公民館。 ・担当課は生涯学習課。 ・派遣社会教育主事がいる。

大洗町	「学んで育った人材の活用」「学習成果を地域に還元する講座」を開発することで地域課題解決に資することが期待できる。	平成２６年度地域活性化促進事業のモデル市町村として取り組み，「学びを地域に還元する講座を継続したい」という声がある。	世代間交流を促しながら「新しい価値の創造」を視点とするプログラムを開発する。	現代的課題をテーマにしながらも，多様な世代や多様な主体が交わることができる講座を開発する。	・公民館は中央公民館１施設のみ。 ・担当課は生涯学習課。 ・派遣社会教育主事がいる。
守谷市	地域課題を解決するためには多くの市町村等で今後取り組む必要があると答えている「家庭教育」「福祉」「防災」「地域づくり」などの分野をすでに先進的に実践しており，既存の先進事例を元に講座開発ができることが期待できる。	地域課題に対応した学習プログラムをすでに実践しているが，担当者はこのプログラムの構成が効果的なものであるかを見直していきたいと考えている。	学識経験者等の助言を通して講座の構成の見直しを図りプログラム開発をすると共に，自主グループ支援の在り方も検討する。	これまで実践してきた講座内容を振り返り，ブラッシュアップして，より効果的な講座を開発する。	・市民活動支援センターで実施しているもりや市民大学の担当課は市民協働課。 ・派遣社会教育主事は不在。

（オ）普及・活用

調査結果・学習プログラム開発を反映した実践事例集および講座企画ハンドブックを作成する。

（カ）企画部・編集部の設置

学習プログラム開発委員会内に「企画部」と「編集部」を設置する。

a「企画部」

モデル市町村で市町村担当者と連携し学習プログラムを開発・実証する。

b「編集部」

講座企画のためのハンドブックを作成する。

（キ）委員構成（２６名）

委員長	小原　一馬	宇都宮大学教育学部准教授	
副委員長	志摩　邦雄	茨城県県北生涯学習センターマネジャー	編集部長
副委員長	大澤　秀樹	水戸市みと好文カレッジ所長	企画部長

委員	佐藤　玲子	常陸太田市教育委員会生涯学習課生涯学習係	企画部
委員	田村　俊男	常陸太田市世矢公民館館長	モデル市町村
委員	吉田　　薫	常陸太田市教育委員会生涯学習課社会教育主事	常陸太田市
委員	赤津　利治	笠間市教育委員会生涯学習課社会教育主事	企画部・常陸太田市担当
委員	大山　邦治	茨城県水戸生涯学習センター社会教育主事	企画部・常陸太田市担当
委員	小沼　正人	大洗町生涯学習課社会教育係	企画部
委員	落合　勇太	大洗町生涯学習課社会教育係	モデル市町村
委員	大森　　剛	大洗町教育委員会生涯学習課社会教育主事	大洗町
委員	海老根健治	那珂市教育委員会生涯学習課社会教育主事	企画部・大洗町担当
委員	篠山　正史	茨城県水戸生涯学習センター社会教育主事	企画部・大洗町担当
委員	前川　優子	守谷市市民協働推進課係長	企画部
委員	福島　晶子	守谷市生涯学習課課長補佐	モデル市町村
委員	高木　　保	守谷市市民活動支援センターセンター長	守谷市
委員	熊谷　智仁	取手市立白山西小学校教頭	企画部・守谷市担当
委員	渡邉　和重	茨城県水戸生涯学習センター社会教育主事	企画部・守谷市担当
委員	林　　雄一	まちなか情報交流センター長	編集部
委員	南波三千代	那珂市中央公民館副館長	編集部
委員	塙　香月子	ひたちなか市大島ｺﾐｭﾆﾃｨｾﾝﾀｰ副ｾﾝﾀｰ長	編集部
委員	安藤　由美	常陸大宮市中央公民館主幹	編集部
委員	山田　　聡	常陸大宮市教育委員会生涯学習課社会教育主事	編集部
委員	伊藤まゆみ	茨城県水戸生涯学習センター生涯学習推進員	編集部
委員	皆川　正巳	茨城県水戸生涯学習センター企画振興課長	
委員	寺門　義典	茨城県水戸生涯学習センター社会教育主事	

オブザーバー　茨城県教育庁生涯学習課

協力　ハンドブック掲載「企画し太郎」イラストデザイン制作

中村真里子（茨城県県北生涯学習センター事業グループ）

（ク）委員会実施状況

回数	日時	内容
第１回	平成２７年 ２月２５日（水） １４：００～１６：３０	事業概要説明 委員会組織検討 モデル市町村選定について

第２回	平成２７年 ３月１９日（木） １４：００～１６：３０	学習プログラム開発計画の策定 次年度準備
第３回	平成２７年 ４月２４日（金） １３：３０～１６：３０	事業概要説明 委員会組織について 講話①「調査研究から見えてきたこと」 講師：宇都宮大学教育学部准教授 小原　一馬 講話②「学習プログラム開発の視点」 ～「目標の明確化」から「戦略・戦術の具体化」へ～ 講師：宇都宮大学地域連携教育研究センター准教授　佐々木　英和
第４回	平成２７年 ５月２２日（金） １３：３０～１６：３０	学習プログラム開発内容検討 ハンドブック作成計画検討
第５回	平成２７年 ７月１０日（金） １３：３０～１６：３０	学習プログラム内容決定，実施準備 ハンドブック内容検討
第６回	平成２７年 １１月２６日（木） １３：３０～１６：３０	学習プログラム実践報告 ハンドブック内容検討
第７回	平成２８年 ３月１７日（木） １４：３０～１６：３０	実践事例集，ハンドブックについて 次年度以降の効果的な普及・活用について

（２）学習プログラム開発（企画部）

ア　常陸太田市

期日	内容	場所
平成27年　4月8日（水）	市町村担当者への挨拶	常陸太田市生涯学習課
平成27年　4月15日（水）	事業概要説明	常陸太田市世矢公民館
平成27年　5月2日（土）	企画立案	常陸太田市世矢公民館
平成27年　6月18日（木）	講座①実施／企画立案	常陸太田市世矢公民館

平成２７年　７月１６日（木）	講座②実施	常陸太田市世矢公民館
平成２７年　７月１９日（日）	講座③実施	常陸太田市世矢公民館
平成２７年　７月２６日（日）	講座④実施	常陸太田市世矢公民館
平成２７年　８月４日（火）	企画立案	常陸太田市世矢公民館
平成２７年　８月６日（木）	講座⑤実施	常陸太田市世矢公民館
平成２７年　９月３日（木）	企画立案	常陸太田市世矢公民館
平成２７年　９月１７日（木）	企画立案	常陸太田市世矢公民館
平成２７年　９月２６日（土）	講座⑥実施	常陸太田市世矢公民館
平成２７年１１月１４日（土）～１５日（日）	講座⑦※未実施	かなさ笑学校
平成２７年１２月１１日（金）	企画立案	常陸太田市世矢公民館
平成２７年１２月１７日（木）	講座⑧実施	常陸太田市世矢公民館

イ　大洗町

期日	内容	場所
平成２７年　４月８日（水）	市町村担当者への挨拶	大洗町生涯学習課
平成２７年　４月１６日（木）	事業概要説明	大洗町生涯学習課
平成２７年　５月１５日（金）	企画立案	大洗町生涯学習課
平成２７年　７月１７日（金）	講座①実施	大洗町中央公民館
平成２７年　８月７日（金）	講座②実施	大洗町中央公民館
平成２７年　９月４日（金）	講座③実施	大洗町中央公民館
平成２７年　９月１３日（金）	講座④実施	大洗町体験活動交流センター
平成２７年１０月１６日（金）	講座⑤実施	大洗町中央公民館

ウ　守谷市

期日	内容	場所
平成２７年　４月８日（水）	市町村担当者への挨拶	守谷市市民協働課・生涯学習課
平成２７年　４月１４日（火）	事業概要説明	守谷市役所
平成２７年　４月２８日（火）	企画立案	守谷市市民活動支援センター
平成２７年　５月１１日（月）	企画立案	守谷市市民活動支援センター
平成２７年　５月１７日（日）	企画立案	守谷市市民活動支援センター
平成２７年　６月３０日（火）	企画立案	守谷市市民活動支援センター
平成２７年　７月２７日（月）	企画立案	守谷市市民活動支援センター
平成２７年　８月２０日（木）	企画立案	守谷市市民活動支援センター
平成２７年　９月１日（火）	講座①	守谷市役所

平成27年　9月15日(火)	講座②※関東東北豪雨災害の影響により日程変更	守谷市市民活動支援センター
平成27年　9月29日(火)	講座②	守谷市市民活動支援センター
平成27年　10月6日(火)	講座③	守谷市市民活動支援センター
平成27年10月20日(火)	講座④	守谷市市民活動支援センター
平成27年10月27日(火)	講座⑤	守谷市市民活動支援センター

企画部会議の様子

（３）ハンドブック作成（編集部）

期日	内容	場所
平成27年　6月16日(火)	内容検討	水戸生涯学習センター
平成27年　7月29日(水)	内容検討	水戸生涯学習センター
平成27年　9月15日(火)	内容検討	水戸生涯学習センター
平成27年12月22日(火)	内容検討	水戸生涯学習センター
平成28年　1月14日(木)	内容検討	水戸生涯学習センター
平成28年　1月28日(木)	内容検討	水戸生涯学習センター

編集部会議の様子

（４）事務局内会議

期日	内容	場所
平成27年　4月7日(火)	事業計画確認	水戸生涯学習センター
平成27年　4月21日(火)	情報共有	水戸生涯学習センター
平成27年　5月12日(火)	情報共有	水戸生涯学習センター
平成27年　6月2日(火)	情報共有	水戸生涯学習センター
平成27年　6月30日(火)	情報共有	水戸生涯学習センター
平成27年　8月4日(火)	情報共有	水戸生涯学習センター
平成27年　9月1日(火)	情報共有	水戸生涯学習センター
平成27年　10月1日(木)	情報共有	水戸生涯学習センター
平成27年　11月4日(水)	情報共有	水戸生涯学習センター
平成27年　12月1日(火)	情報共有	水戸生涯学習センター
平成28年　1月5日(火)	情報共有	水戸生涯学習センター
平成28年　2月2日(火)	情報共有	水戸生涯学習センター
平成28年　3月1日(火)	情報共有	水戸生涯学習センター

（５）茨城県生涯学習情報提供システム「茨城の生涯学習」の活用

Web ページ茨城県生涯学習情報提供システム「茨城の生涯学習」内にあるグループスペース（掲示板）を活用し，関係者間の情報共有の見える化を試みた。各種配付文書や報告書関連資料のやりとりについても，グループスペース内のキャビネットにデータを格納することで，互いの内容や進捗状況の確認ができるようにした。

茨城県生涯学習情報提供システム「茨城の生涯学習」

https://www.gakusyu.pref.ibaraki.jp/

Ⅱ　学習プログラム開発委員会の実際（実践事例）

1　常陸太田市

（1）事業の基本情報

事業名（講座名）	趣味・教養の講座を入り口として，地域課題に向けて主体的に取り組む人材を発掘する学習プログラム開発
テーマ・分類	地域課題解決
簡単な内容説明	世矢公民館では地域活動に参画する人材が少なく，公民館に人が集まらない。公民館に人を集めることで，公民館活動や知育活動に関心をもってもらうとともに，地域住民の中から地域課題解決に主体的に取り組む人材を発掘していく。

（2）事業目的

事業実施の背景 （問題点・可能性）	１９８０年代，常陸太田市世矢地区は真弓ケ丘団地造成により人口が増加し，学校では教室不足となり，増改築を重ねてきた。しかし近年，常陸太田市全体が人口減少傾向にある。特に世矢地区の人口減少は著しい。そんな背景もあり，各種講座を開催しても人が集まらない状況である。 一方，趣味教養の講座（市内花巡り，真弓山ハイキング，ジオパーク等）には，人気が高い。地元真弓山の寒水石を講座に取り入れることにより多くの住民を集め，地元の郷土に関する座学や，体験を通して，活性化を図りたい。
事業のねらい	・地元に密着した講座を開催し，公民館に人を集める。 ・講座参加を契機に，地域コミュニティとしての結束力を高める。 ・地域の人材，名所を発掘し，広く情報発信していく。（周知を図っていく）

（3）事業方法

実施主体	世矢公民館
対象	世矢地区住民

定員	３０名～１００名
実施方法	講座・講演，催し物
講座実施回数	７回
会場	世矢公民館，かなさ笑楽校
広報	世矢地区全戸配布
経費	講師謝礼／広報チラシ作成費／交通費／消耗品
連携先	常陸太田市世矢公民館　（月・水・金） 常陸太田市亀作町 539-1　℡0294-74-3882
学習成果を地域に還元するための考えられる手だて	地域をテーマにした学習に参加した住民の中から，地域のことについて主体的に考える住民を発掘し，公民館事業に参画してもらう。

（４）予想される事業成果

期待される効果	地元に密着した講座を開催することで，地域コミュニティとしての結束力を高めることができる。
事前に予想される課題	・開催の広報手段について ・はじめての土曜日講座開催の周知 ・従来の講座・講演の参加者の中から，地域課題について関心がある住民を発掘する方法

（５）講座実施状況

実施日	テーマ	内容	講師
6 月 18 日（木） 13:30～15:30	自然	地域とジオ（大地）の関わりを学ぼう	常陸太田まちかど案内人
7 月 16 日（木） 13:30～15:30	健康	地域の医療施設から学ぼう 『脳神経外科でのよもやま話』副題脳卒中医療の昔と今	脳神経外科ブレインピア南太田河野拓司院長
7 月 19 日（日） 12:30～16:30	スポーツ	梅雨明け　世矢公民館に集まろう！！ピンポン大会	卓球を楽しむ会
7 月 26 日（日） 12:30～16:30	生活文化	梅雨明け　世矢公民館に集まろう！！お楽しみ演芸会	カラオケ愛好会

8月6日（木） 13:30～15:30	生活文化	落語講座 ～伝統文化に触れよう～	茨城キリスト教学園高等学校教諭斉須博先生
9月26日（土） 9:30～11:30	歴史	日本遺産記念！寒水石と弘道館	弘道館事務所学芸担当 小圷のり子先生
11月14日（土） ～15日（日） ※参加者不足により未実施	地域	世矢公民館活動を考えよう かなさ笑楽校での「一泊研修」 （世矢地区の希望者で公民館の活動についてグループ研修）	地域住民
12月17日（木）	地域	世矢公民館講座を考えよう	水戸生涯学習センター社会教育主事 常陸太田市生涯学習課社会教育主事

（６）事業実施上の注意点・配慮を要する点など

準備段階	実施段階	事後段階
講座全体のバランスを考え，講座を開設した。地域への広報を，従来の回覧から全戸配布として，地域に広める。また，講座に集まった人を中心に，公民館講座について関心をもってもらう。	受講者全体にわかりやすい講座となるよう進行する。 掲示物を作成し，興味関心を高める。	地元に関する講座なので参加者に講座の感想をもらい，次年度に反映する。 掲示物を作成し，公民館活動を知ってもらう。

（７）実践事例

ア　歴史をテーマにした講座　（実施日）平成２７年９月２６日（土）

内容	講師	準備物等
平成２７年４月に日本遺産に認定された水戸市の弘道館には，常陸太田市真弓山から産出された寒水石で作られた『弘道館記碑』がある。「世矢地区から産出された寒水石と弘道館」をテーマに学ぼう。	弘道館事務所学芸担当 小圷のり子先生	・配付資料 ・PC ・プロジェクター ・スクリーン ・カメラ，ビデオ ・アンケート用紙

時間	プログラム	展開のチェックポイント
9:30 11:30	開会行事 司会進行（世矢公民館事務局） ・あいさつ ・講座説明，講師紹介 講演 「世矢地区から産出された寒水石と弘道館」 閉会行事 司会進行（世矢公民館事務局） ・質疑・応答 ・諸連絡 ・地域のみなさんと地域課題を考える講座の参加者募集案内 ・あいさつ	 ・資料確認 ・寒水石でできた弘道館記碑 八卦堂内　３ｍ×２ｍ×0.5ｍ ・スライド，資料を併用し，具体的に説明 ・寒水石の当時の輸送方法について，地域の方から話を聞く。 ・アンケートの協力呼びかけ

イ　地域課題解決をテーマにした講座（実施日）平成２７年１２月１７日（木）

内容	講師	準備物等
地域の課題を発見して，来年度開講したい世矢公民館講座について考えよう。	・水戸生涯学習センター 社会教育主事　寺門義典 ・水戸生涯学習センター 社会教育主事　大山邦治 ・常陸太田市生涯学習課 社会教育主事　吉田薫	・模造紙 ・付箋紙 ・ホワイトボード ・PC ・プロジェクター ・スクリーン ・カメラ，ビデオ ・アンケート用紙

時間	プログラム	展開のチェックポイント
13:30 13:40 13:50 14:05 14:20 14:40 14:50 15:10 15:20 15:30	ガイダンス チェックイン ワークショップ① ・宝・特色を見つける ワークショップ② ・課題を考える ワークショップ③ ・公民館講座を考える 休憩 全体シェア 全体 チェックアウト クロージング	・アイスブレイク（バースデーライン）を実施し，自己紹介をとおし，和やかな雰囲気づくりをする。 ・一人一人が地域・公民館を考える時間とする。 ・紹介をする時間を設定し，他者を否定しないよう助言する。 ・発表をとおし，一人一人，グループごとの気づきを共有する。 ・今後の公民館講座について，全体で考える。

（８）事業を実施するために工夫した点

①地元をキーワードに趣味・教養の講演や催しを開いた。
②講演は，地元の産業や営みをテーマに関連性・継続性を持たせた。
③催しは，公民館で活動する趣味・教養のグループから「ピンポン大会」「お楽しみ演芸会」そして，アマチュア落語家による「世矢公民館落語会」を開きその活動振りを披露した。
④地元の病院長に，高齢者の健康管理・生活習慣そして，認知症など加齢と

共に発症する病気や生活習慣について講演いただいた。
⑤講演・講座開催の知らせは，従来の回覧方式から全戸配布にした。
その上，公民館，地元の郵便局・農協に A3 サイズの案内を掲示しもらった。
⑥私的なグループにも呼びかけ，仲間に声掛けを頼んだ。
⑦開催日は，平日だけで無く土・日曜日の休日にも設けた。
⑧講演会毎にアンケートを実施し，次回，次年度の講演・講座開設の参考にした。
⑨参加者を中心に公民館の講演・講座開設に取り組む人材の育成を常に念頭に置いた。

（９）成果

①参加者は，地域住民の 1%（50 名）以上を目標に設定し，ほぼ目標を達成した。
中でも『お楽しみ演芸会』は 100 名に近い参加者があった。
②バスを利用した日帰りの趣味・教養研修（遊びの要素大）は人気が有り定員 40 名が苦労も無く埋った。(娯楽の要素が大きい行事)
③全戸配布による案内で講演・講座開催の周知徹底がはかれた。
④地域をテーマにした各種講演・講座に参加した受講生に，地域や公民館について共に考えるワークショップへの参加を呼びかけたことで，最終回の講座には３０名の受講生が集まった。

（１０）課題

①講演・講座を主体的かつ継続的に開催するための『人材の発掘（ワーキンググループの立ち上げ)』は相当に難しい。引き続き思案が必要。
②休日に講演を開催しても，若い人（２０～５０歳）や団塊世代の参加者は集まらなかった。今後が心配。
③参加者が固定化し裾野が広がらない。
④地元をキーワードにする講演・講座は人気があるが，講師・講演内容選びに限度があり苦労する。

（１１）今後の方向性

①地元をキーワードに趣味・教養のワーキンググループを育て，継続的な事業の展開に取り組む必要あり。
②団塊世代の取り込みを考えた講演・講座の開設が必要。それは何か？が常に課題であるが，ワーキンググループ設立に向けて人材発掘に努める。

③講演・講座の質の向上。多くの地区民が興味をもち，参加者を増やす試みは，今後とも検討し続ける必要がある。

（１２）参考資料

常陸太田市の概要	
人口	52,168 人　（H27,8,１現在）
面積	372.01ｋ㎡
世帯数	19,919 世帯
公民館の数	19 館
市民センターの数	４ヶ所

実施主体の概要（施設名：世矢公民館）
・世矢公民館は，常陸太田市にある１９公民館の一つで，世矢地区に在る。 ・世矢地区は，小目・亀作・真弓・大森そして，真弓ケ丘団地の５町会で構成。人口は，５，５２５人で，１９公民館（１９地区）の内２番目に多い。運営は，市の補助金と後援会費でまかなっている。 ・常陸太田市生涯学習センター，生涯学習課の管理下にある。 ・利用時間は，９時から２１時まで。 ・職員：館長（非常勤），主事，活動協力員（館長の要請により勤務） ・主事は，月・水・金曜日　８時３０分から１６時３０分まで勤務。 ・玄関の鍵は，最寄の施設に預け，利用者が上記時間内なら自由に開錠でき，使用できる。但し，主事の勤務時間以外は，事務室の利用はできない。 〈主な事業内容〉 ○敬老会：世矢公民館取りまとめで，毎年敬老の日に５町会合同で実施 ○世矢ふれあい祭り：平成２７年度は第３２回目を開催 ○三世代交流『米づくり・真弓駒作り』市立世矢小学校５年生の体験学習 ○三世代交流『昔遊び』市立世矢小学校１年生との交流 ○『世矢』だより：手作りで年４回発行，２，２００部作成地区内全戸配布 ○講演会：地元をキーワードに年４回実施，Ｈ２７年度は落語会も開催 ○演芸会・ピンポン大会の開催 ○日帰り研修：バスを利用し市内外の公共施設を見学，年２回定員４０名 ○市呼びかけのスポーツチャレンジデー，生涯学習フェスティバルに参加 ○年中行事：桜まつり・七夕飾り・大助人形作り・お月見・注連飾り，門松作り・書初め・節分・ひな祭りなど実施

（１３）写真資料

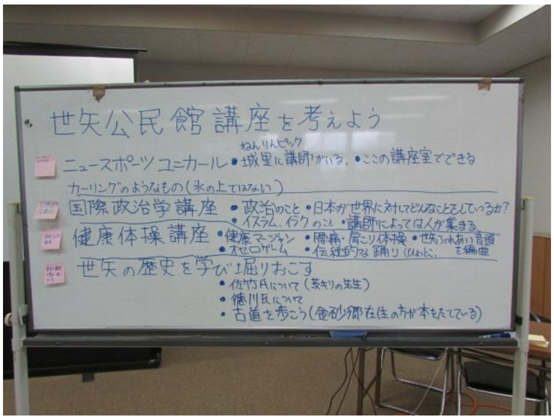
世矢公民館

世矢公民館の掲示物

講演「世矢地区から産出された寒水石と弘道館」

世矢公民館講座を考えよう

世矢公民館講座を考えよう



世矢公民館講座を考えよう

２　大洗町

（１）事業の基本情報

事業名（講座名）	「もっと子どもと遊んでみませんか？ ～子どもの遊びと大人の役割～」
テーマ・分類	あそびのボランティア育成
簡単な内容説明	地域の子どもたちにあそびを教えるボランティアの育成

（２）事業目的

事業実施の背景 （問題点・可能性）	近年，本町においても少子化，核家族化，地域の方々との交流機会の減少などにより，家庭でのしつけや地域の教育力の低下などが課題となっている。このような中，地域の方々とともに次代を担う子どもたちの健やかな成長を支え育む環境づくり，人材づくりが必要であり，地域の子どもをみんなで育てる機会を幅広く充実させていきたい。
事業のねらい	講座を通じてボランティア育成を図り，地域での活動を活性化し，少なくなっている子どもたちが遊びをとおして成長できる環境づくりを進めていく。

（３）事業方法

実施主体	大洗町中央公民館
講師	星野　諭（ＮＰＯ法人　コドモ・ワカモノまちing代表）
対象	大洗町在住の方
定員	20名
実施方法	実践を交えた講座を実施
回数	5回
時間	第1～３回，第５回　10：00～12：00 第４回　13：00～16：30
会場	第1～３回・第５回　大洗町中央公民館 第４回　大洗町体験活動交流センター，センター前広場
経費	講師謝礼／広報チラシ作成費／交通費／消耗品／保険料
広報	町内全世帯・町内小中学校保護者・町内公共施設へチラシ配布

連携先	大洗町高校生会／NPO 法人大洗海の大学／NPO 法人ノースマーク
学習成果を地域に還元するための考えられる手だて	学んだことを「放課後子ども教室」のスタッフに各団体や地域で活かし，広げることで地域の教育力の向上に繋がる。

（４）予想される事業成果

期待される効果	ボランティアが育成されることによって地域の教育力アップや子どもたちが遊びをとおして成長できる環境づくりが期待される。
事前に予想される課題	受講生が「受講して終わり」という講座にならないようにすること。地域ボランティアの担い手として活動を広げられるようフォローしていきたい。

（５）講座実施状況

実施日	内容	講師	準備物等
6 月中旬	広報（チラシ全戸，町内小中学校への配布）		配布チラシ用色紙
7 月 17 日（金） 10：00～12：00	開講式・ワークショップ 「子どもの遊びと見守り講座」	星野　諭先生	パソコン・プロジェクターなど
8 月 7 日（金） 10：00～12：00	子どもの興味を惹くための遊び講座 ※第4回の実践講座の為の遊びづくり 「ムゲンの遊びを創り出そう！」	星野　諭先生	カヤック・ダンボールなど
9 月 4 日（金） 10：00～12：00	安全指導・危険対策・応急手当等の指導 ※第 4 回の実践講座に向けての対策 「遊びの価値と安全管理，応急手当講座」	星野　諭先生	新聞紙・マーカーペンなど
9 月 13 日（日） 13：00～16：30	実践講座（体験活動交流センター） 「子どもの遊びの実践」	星野　諭先生	カヤック・木っ端・布・ペンキ・紙など

10月16日(金) 10：00～12：00	振り返り・閉講式・勧誘 「今後にむけて～今だけ・ここだけ・私たちだけワークショップ」	星野　諭 先生	勧誘用チラシ

（６）事業実施上の注意点・配慮を要する点など

準備段階	実施段階	事後段階
初めて取組む講座なので，充分に内容を検討（先生との打合せなど）し，事業の目的とかけ離れない様に心がける。	遊びを創り出すことを学ぶと同時に子どもたちを見守る安全管理にも力を入れるよう作り上げる。	受講者が学んだことを活かせる講座内容にする。また，アンケート調査を実施し，次年度以降に活かしていけるようにする。

（７）実践事例

ア　第１回講座　（実施日）平成２７年７月１７日（金）

内容		講師
子どもの遊びと見守り講座		星野　諭　先生
時間	プログラム	展開のチェックポイント
10：00 12：00	開講式 子どもの遊びと見守り講座＆童心ワークショップ。 子どもにとって遊びとは？見守る上で注意すること，実践事例の紹介と見守り方，子ども時代を思い出す原体験ワークショップなど	事業の導入で受講者どおしの遊びの原体験を共有する。
準備物	パソコン・プロジェクター・スクリーン・椅子・机・ホワイトボード・マーカーペン・付箋・模造紙・カメラ・ビデオなど	

イ　第２回講座　（実施日）平成２７年８月７日（金）

内容		講師
ムゲンの遊びを創り出そう！		星野　諭　先生
時間	プログラム	展開のチェックポイント
10：00 12：00	ムゲンの遊びを創り出そう！わくわくワークショップ「今だけ×ここだけ×私たちだけ」 様々な道具と頭・体をつかって，世界でたった一つの遊びをつくります。 グループに分かれて実際にムゲンの遊びを体験してもらいます。 ※この回で話し合った遊びを 第４回の実践にて実施	時代（ニーズ）・年・季節・月・日・地域資源（人・もの・自然・文化・歴史・お店）・子どもやスタッフの個性・特技・趣味・やりたいことなどを自由に出し合い組み合わせることで，「今だけ×ここだけ×わたしたちだけ」の遊びを考える。
準備物	パソコン・プロジェクター・スクリーン・椅子・机・ホワイトボード・マーカーペン・付箋・模造紙・カメラ・ビデオなど	

ウ　第３回講座　（実施日）平成２７年９月４日（金）

内容		講師
遊びの価値と安全管理，応急手当講座		星野　諭　先生
時間	プログラム	展開のチェックポイント
10：00 12：00	遊びの価値と安全管理，応急手当講座 危険と冒険のバランス，リスクとハザード，予防・緊急時対応・信頼関係，内的・外的環境，発見・評価・対処・確認，応急手当基本など	危険には排除すべき危険（ハザード）と遊びの要素となりうる危険（リスク）がある。 また，外的要因と内的要因があるので，それぞれどれに該当するかしっかり把握することが大事。
準備物	パソコン・プロジェクター・スクリーン・椅子・机・ホワイトボード・マーカーペン・付箋・模造紙・カメラ・ビデオなど	

エ　第４回講座　（実施日）平成２７年９月１３日（日）

<table>
<tr><td colspan="2">内容</td><td>講師</td></tr>
<tr><td colspan="2">子どもの遊びの実践</td><td>星野　諭　先生</td></tr>
<tr><td>時間</td><td>プログラム</td><td>展開のチェックポイント</td></tr>
<tr><td>13：00
～14：00

14：00
～15：30

15：30
～16：30</td><td>感じる・シェアする・工夫する遊び
事前・実践・事後のチェックポイント
実践前の事前打合せ・準備
実践
カヤックにペンキを塗るチーム，土台を廃材等で作るチーム，巨大折鶴を折るチームの３チームに別れた。
反省会（実践の振返り）・片付け</td><td>実施前にハザードチェックをする。</td></tr>
<tr><td>実践の
振り返り</td><td colspan="2">（カヤックのペイントについて）
・カヤックが乾ききる前にかついでしまって，ペンキがくっついた。しっかりとムラなく塗った所は大丈夫だった。
・隣同士でペンキがはねたりしたので，ペンキを塗るときのルールをもう少ししっかり決めておくと良かった。
・ハケを振りましている子がいて危なかった。全体を見ようとしたが，なかなか関わっている子どもに夢中になってしまい，改めて全体把握の難しさを実感した。
（土台づくりについて）
・みこしの土台部分の左右の担ぐ為の棒の長さが違ったので，担ぐときのバランスが悪かった。揃えると良い。
（折鶴について）
・ペンキ塗りがかなり盛り上がっていたので，折り紙チームの子ども達もそちらが気になってしまい，気持ちを盛り上げるのに最初手間取った。
・折鶴の羽のところが折れてしまったので，ダンボールなどで補強したが型崩れしてしまった。
・折鶴は長方形の模造紙を繋ぎ合わせて作ったので，正方形にするのが難しかった。最初から正方形の用紙を繋ぎ合わせるとよかった。</td></tr>
</table>

オ　第５回講座　（実施日）平成２７年１０月１６日（金）

内容		講師
今後にむけて（振り返り）		星野諭　先生
時間	プログラム	展開のチェックポイント
10：00 12：00	今後にむけて～今だけ・ここだけ・私たちだけワークショップ～ 今だけ（時間）・ここだけ（場所）・私たちだけ（特技）を活かした遊び環境とは？ ふりかえり（ソリューションフォーカス）など	対話を軸としたふりかえりを通して，講座後の活動への動機付けとなるような時間とする。
全体のふりかえり	遊びとは，自分が主役の物語をつくる。 「生きるって面白い！」←自己肯定感を育む。 「攻撃と共感のスイッチ」を作るのが遊びです。 遊びのプロファイリング 「大人化」に注意 「大人化」とは マニュアル型・過度の管理体制 強制的・空気の読めないおせっかい 大人の不信・不安・否定	

（８）事業を実施するために工夫した点

受講生の募集については，講座案内のチラシを町内全世帯に配布した。また，町内の小中学校を通して保護者へ配布していただくなど，子どもと関わりの深い方々の目にふれる様に工夫した。

また，事前に，子どもと接する機会の多い放課後子ども教室のスタッフに話を伺い，「近年，担い手が不足している現状で，安全管理などをどのようにしながら子どもたちと接していけばいいのか不安である。」という声を聞くことができた。遊びについて，どのように提供していくかということもスタッフとして運営する上で，ひとつの不安材料となっているようである。

それらを解決していくことを踏まえながら，子どもの遊びそのものと遊びの中での安全管理など，学ぶことを目的とする講座を中心としながら，実践まで盛り込んだ内容で講師の星野先生に実施していただいた。実践においても，単に先生から提示されたテーマで実施するのではなく，どのようなものが良いかという意見を受講生同士で出し合って実施した。また，その実践を振り返り，今後受講生ひとりひとりが，「講座で学んだことをベースにどのような形で活かしていきたいか」，ということを発表し合い，また，認識し合うことによって，単に「受講して終わり」と言う講座ではなく，個人としても学んだことを発揮できるよう各方面で活かせる講座になるようにした。

（９）成果

今回の講座が「受講して終わり」ではなく，今後の活動に活かしていける講座となったことである。

今回の受講生は，「放課後子ども教室」や「児童クラブ」のスタッフなどであり，「地域ボランティア」や「ＮＰＯ活動」などで子どもと触れ合う機会がある方がほとんどであり，より顕著に「子どもの遊び」に関して理解し，今後の個々の活動の中でも受講内容が活かせるとのことであった。

具体的な内容として，安全管理については，子どもと遊ぶ中で危険は２種類に分けられるということであり，遊びを展開していく中でどこが排除すべき危険（ハザード）でどこが残すべき危険（リスク）なのかを学ぶことができた。また，遊びの展開については，子どもたちには道具を用意しておくだけで自然に遊びを開発するので，大人はむやみやたらに手を出しすぎないことなど，ついつい大人がやってしまいがち，見落としてしまいがちなことを学ぶことができた。

（１０）課題

今回は定員２０名の募集に対し，申込者が８名と少なかった。理由としては，募集期間が短かったことと，広報の媒体（今回はチラシによる配布のみ）かと考えられる。募集期間に関しては，今回は約２週間であったが，全５回の講座ということを省みると１ヶ月は必要であったのではないかと考える。また，配布先に関しても小中学校だけになり，幼稚園・保育園（所），子ども会などにもPRすることができなかったことが反省点である。

受講日については，事前に受講しやすい曜日や時間帯をリサーチするなど

して，平日（金曜日）の午前中に実施した（４回目の実践講座は日曜日午後の開催）が，受講者数の増加を図っていくためには，更なるニーズを把握しなければならない。また，安全管理の講座などは一度だけでの参加を可能にするなど調整し，受講者の目的に応じて少しでも受講しやすい環境を整えることが必要であった。

講座の内容としては，第４回の実践講座で，ねらいである遊び（ものづくり）を通して子どもたちが心を通わせることができ，廃材や持ちよりの素材（いわゆる出来合いの製品としての材料ではないもの）を使って屋外での遊びを実践する中で，リスクやハザードについても考えることができたが，完成した作品（ピースカヤック）のその後の活用まで検討しておく必要があった。

（１１）今後の方向性

受講した方々が各分野において学んだことを活かした活動を展開し，また，周りの方々にも学習成果を広めることにより，子どもたちの遊びの環境が充実することを期待している。そして，それらを見聞きした方々が今回と同様な講座を学びたいといった需要が増えることによって，継続した講座展開を図ることができる。

他にも，子どもが身近にいる大人に対して講座を波及していくことを考え，PTA や子ども会などとのタイアップを視野に入れることや，現状の放課後子ども教室のスタッフの方々にも参加していただき，スキルアップの講座としての展開も図るなども検討できる。

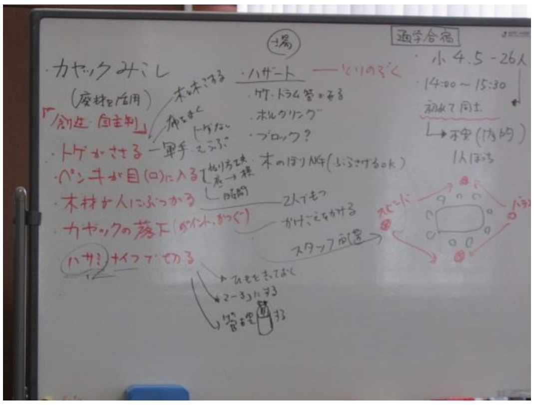
現代の子どもたちは，少子化，核家族化，一人っ子家庭の増加など子どもを取り巻く状況が深刻化し，子どもたちの遊べる場も少なくなり，加えてゲーム機やインターネット，塾などにも時間をとられてしまっている。このような中，いかに地域の大人が，子どもたちが自分の好きなことを自分のやりたい方法で遊ぶといった子どもの遊びをとおして自主性や創造性が養われることなどの重要性を理解し，また，共有していかねばならない課題である。こうした現代的課題，地域的課題に引き続き公民館講座として取り組んでいきたい。

（１２）参考資料

大洗町の概要	
人口	17,588 人

面積	23.74 ㎢
世帯数	7,391 世帯
公民館の数	1 館
町民センターの数	なし
実施主体の概要（施設名：大洗町中央公民館）	
・大洗町中央公民館は，大洗文化センター（中央公民館・漁村センター・町民会館からなる複合施設）の一部で，大洗町教育委員会生涯学習課が管理運営している。 ・利用時間は，９時から２１時までで，月曜日が休館である。町唯一の公民館であり，館内に図書室（９時３０分～１６時３０分）を有する。（電話番号：029-267-0230）	

（１３）写真資料

	
第１回目の講座	実践活動の計画作り
子どもたちと作成したピースカヤック	最終回のふりかえり

3　守谷市

（1）事業の基本情報

事業名（講座名）	地域の防災マップを作ろう
テーマ・分類	・防災，安全　・地域づくり
簡単な内容説明	防災という観点を主眼に据えつつ，地域の活動課題に沿ったテーマに応じた「地域マップ」を，自治会・町内会又は自主防災組織単位で，地域フィールドワークを交えて作成する

（2）事業目的

事業実施の背景 （問題点・可能性）	・東日本大震災発生から時間が経過したこと，災害が発生しにくいという地理的条件，地域的な条件（旧地区は地域内のつながりが強く，防災組織がなくても何とかなるという意識が強い）から，全市的な防災意識の向上が図られない。 ・市作成の防災マップは，見易さや全域情報網羅という観点から，必要最小限情報（避難所，避難場所等）の掲載にとどまっている。 ・もりや市民大学で過去 2 年実施した防災コースは，受講者を個人としたため，地域での具体的な成果につながらない。 ・発災時に地域で必要となる要援護者リストの活用が図られない。
事業のねらい	・地域防災意識の向上と，地域防災活動のレベルアップ ・地域防災マップ作成を契機に，地域コミュニティとしての結束力及び課題解決力の向上

（3）事業方法

実施主体	もりや市民大学運営委員会
講師	・国立研究開発法人防災科学技術研究所研究員 李泰榮 ・守谷市保健福祉部社会福祉課課長 飯島聡 ・守谷市生活経済部交通防災課課長 鈴木規純

対象	市内自治会・町内会，自主防災組織
定員	30～36 名（5～6 団体）※1 団体 5～6 名，1 名は PC 操作可能なこと
実施方法	もりや市民大学特別企画コースとして実施
講座実施回数	全５回（前半３回，各地区自主活動[フィールドワーク]，後半２回）
時間	10：30～12：00
会場	守谷市民活動支援センター会議室（守谷市御所ケ丘五丁目 25 番地 1 守谷市市民交流プラザ 2 階）
経費	講師謝金／消耗品
広報	・市広報紙掲載 ・市ＨＰ，もりや市民大学ＨＰへの掲載 ・市内公共施設等へのポスター，チラシ等の配備
連携先	・国立研究開発法人防災科学技術研究所 ・国立大学法人宇都宮大学　小原　一馬　准教授 ・守谷の地域防災を考える会 ・守谷市社会福祉協議会 ・行政内部（交通防災課，社会福祉課）
学習成果を地域に還元するための考えられる手だて	・受講団体に，受講結果を実践活動に活用してもらう。 ・受講事例を地域に紹介することで，他地区への波及を図る。 ・他地区への波及の際，受講団体に講師や事例発表として活躍していただく。

（４）予想される事業成果

期待される効果	・受講団体が所属する地域の防災意識向上が図られる。 ・作成した地図を活用することで，地域の防災訓練のレベルアップと，活動の継続が期待できる。 ・防災活動を通して地域の結束力が強まり，地域力の向上につながる。 ・受講団体事例を全市的に紹介することで，他地区の防災意識向上と同様活動を試みる地区の誕生。

事前に予想される課題	・防災マップ作成システム（ｅコミュニティ・プラットフォームシステム，以下「ｅコミシステム」）の運営担当部署の確定※防災マップ企画運営体制が確立するまでは，防災科研が対応予定 ・自主活動の際の災害保険 ・自治会・町内会役員や，自主防災組織担当者が１年交代である地区が多く，活動の十分な引継ぎと継続的な更新体制が確保されづらい。 ・事例紹介の場及び受講団体の活躍の場の設定 ・受講団体の学び直しの場及び永続的な相談窓口の設定

（５）講座全体計画

実施日	内容	講師	準備物等
９月１日	守谷市の現状と課題を知る ※防災分野のみとするか，福祉情報も入れるべきか関係部局との検討後，両方の内容を入れた。	守谷市役所 交通防災課長 社会福祉課長	講義資料 PC・プロジェクター
~~９月 15 日~~ ９月 29 日 ※関東東北豪雨の影響により日程変更	地域課題の設定 ※防災マップ作成の意義（地図の特性と活用事例を基に），掲載すべき情報の説明と地域課題の把握（リスト化，優先順位付け）を盛り込んだ講義となるよう，講師に依頼。	国立研究開発法人防災科学技術研究所 研究員	講義資料 PC・プロジェクター 課題カード 地図類 地域特性リスト 災害対策シート
~~９月 29 日~~ 10 月６日 ※関東東北豪雨の影響により日程変更	防災まち歩き ～まち歩きの観点を学習後，フィールドワーク演習及びｅコミシステム操作方法を学習	国立研究開発法人防災科学技術研究所 研究員 〇協力：地域防災を考える会	講義資料 PC・プロジェクター 地図類 災害対策シート 項目整理シート デジカメ

	自主学習（フィールドワーク） ～自分たちで自分たちの地域を歩き，地域の情報を収集する。	○協力：地域防災を考える会	
10 月 20 日	防災マップの作成 ～自主学習で得た記録を持ち寄り，紙の防災マップを作成し，情報をｅコミマップに登録する。	国立研究開発法人防災科学技術研究所研究員	講義資料 PC・プロジェクター 班別PC プリンター 写真データ 写真票 項目整理シート 地図類
10 月 27 日	防災マップの作成＆発表会 ～自主学習で得た情報をｅコミマップに登録し，自分たちの地域の研究成果として発表する ※今後連携すべき組織についての助言		講義資料 PC・プロジェクター 班別PC プリンター 写真データ 項目整理シート 地図類 防災活動計画シート

※受講団体毎に１名のファシリテーター（兼操作補助者）を配置

（６）事業実施上の注意点・配慮を要する点など

準備段階	実施段階	事後段階
・関係部局との十分な連携 ・必要情報の精査 ・広報手法	・受講団体（者）間のコミュニケーションの促進 ・情報収集支援 ・脱落団体（者）を出さない配慮	・修了団体のフォロー ・全市的な広がりの推進 ・上記内容の指標化及び実績把握方法 ・ｅコミシステム運営体制

（７）実践事例

ア　第１回講座　（実施日）平成２７年９月１日（火）

内容		講師	準備物等
守谷市の現状と課題を知る ～発災時に地域はどう動く？　平常時に備えておくべきモノ，ヒト，コト～		守谷市役所 交通防災課長 社会福祉課長	講義資料 PC・ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾀｰ
時間	プログラム	展開のチェックポイント	
15:00 （40 分間）	地震災害の被害軽減のために ～自主防災組織の重要性～（交通防災課）	地域防災の必要性を説明 ⇒市の想定被害等を理解	
15:40 （25 分間）	災害時要援護者への取組みについて（社会福祉課）	発災時の要援護者対応について，国・県・市の根拠法令及び市の対応の現状を説明 ⇒市の要援護者対策について理解	
16:05 （25 分間）	質疑応答 ・市の防災対策の想定条件は →震度 6 弱の直下型地震。 ・市の防災情報を地域対策策定のための前提条件として良いか →地域で現場を確認してほしい。 ・発災時の市の対応 →地域で 1 週間の備蓄をお願いしたい。 市の備蓄品は体制が整い次第，避難所に配給する。 ・福祉避難所の現状 →市内数か所しかないため，まずは避難所に避難し，必要性の高い方から移動する予定。今後の市内増設は課題。	講義内容に関する質疑応答 ⇒今後，地域防災活動を検討する上での前提条件となる市情報について理解を深める	
16:30 （10 分間）	次回講義の説明（防災科研）	次回以降の講師から今後の予定説明	

イ　第２回講座　（実施日）平成２７年９月２９日（火）

内容	講師	準備物等
地域課題を調査する ～「共助」に備えた防災マップについて学び，地域の災害特性を考慮した地域固有の課題を調査する～	国立研究開発法人防災科学技術研究所研究員	講義資料 PC・ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾀｰ 課題カード ハザードマップ 地区別地図 地域特性リスト 災害対策シート サインペン

時間	プログラム	展開のチェックポイント
10:30 （15分間）	「共助」に備えた防災マップづくり	共助の視点から見た災害時の地域の役割と防災マップ作成・活用の意義を説明 ⇒コース目的理解の促進
10:45 （30分間）	災害時の地域危険性の確認	発災時に発生し得る被害及びその原因となる危険個所を確認 ⇒地域特性を理解
11:15 （40分間）	災害時の課題と対策の検討（グループ議論）	受講団体毎に，設定災害条件（季節・時間・天候等）を決定し，災害時の地域課題と対策を検討 ⇒災害時の事態の流れと地域課題を理解
11:55 （30分間）	検討結果の共有（グループ発表・講評）	受講団体毎に，検討結果を記載した災害対策シートを発表 ⇒発表により，受講団体間で各地区の検討結果を共有。また，災害対策シート

		A0をA3に記録し，コピーを団体構成員に配布することで，構成員間で検討結果を共有。
12:25 （5分間）	総括講評・次回講義の説明	他地区の検討結果も参考とし，次回講義までに災害対策シートの再検討を指示

※NHK水戸放送局の取材あり。当日講義の様子は「茨城ニュースいば6」で放映された。(10月15日午後6時10分～「豪雨のなか大きな役割を果たした最新気象システムとは」)

ウ　第３回講座　（実施日）平成２７年１０月６日（火）

内容	講師	準備物等
災害対策を検討する ～防災マップの作成視点について学び，地域課題に対して平時から備えておくべき対策を検討する～	国立研究開発法人防災科学技術研究所研究員 ※協力者 地域防災を考える会会員	講義資料 PC・プロジェクター 災害対策シート 項目整理シート 演習用まちあるき地図（A3） 地図（地区別・A0） 画板（A3） デジカメ サインペン

時間	プログラム	展開のチェックポイント
10:30 （15 分間）	防災マップ掲載項目作成の視点	防災マップに掲載する項目を，危険と資源に分ける整理方法を説明 ⇒項目整理方法を理解
10:45 （20 分間）	防災マップ項目の整理（グループ議論）	前回作成した災害対策シートから項目整理 ⇒自主学習となる地区別防災まちあるきの視点を確定
11:05 （5 分間）	防災まちあるきのやり方（説明）	防災まちあるきの注意点，機材の使い方，記録方法等を説明
11:10 （50 分間）	防災まちあるき（演習）	会場周辺に設定した 1 コースを 2 グループで順逆に回る ⇒防災まちあるきを体得
12:00 （5 分間）	防災まちあるきのやり方（検証）	資源の探し方等の注意点説明。地区別自主演習（防災まちあるき）の方法及び貸出機材の説明

12:05 （5 分間）	その他	守谷防災ポータルの紹介及び写真掲載についての説明 ⇒今後作成するｅコミシステムの掲載場所を知るとともに写真掲載についての了承を得る

エ　フィールドワーク（実施日）平成２７年１０月７日（水）～１９日（月）

内容	講師	準備物等
防災まちあるき ～防災まちあるきを通じて地域の状況（危険要素，防災資源，社会資源）を確認しながら情報を収集する～	なし ※協力者 地域防災を考える会会員	項目整理シート 防災まちあるき地図 画板（A3） デジカメ サインペン

時間	プログラム	展開のチェックポイント
	受講団体の対象地区について，防災まちあるきを行う範囲を決め，その範囲内に存在する防災マップ項目をまちあるきにより確認。 掲載すべき項目（例：消火栓，防火水槽，危険箇所等）を協議・決定し，防災マップ項目整理シートを再整理するとともに，地図に記入する。 ※各地区で自主学習を実施するに当たり，第 3 回講義で担当いただいた地域防災を考える会会員に立会い協力をいただいた。	※各地区実施日 久保ケ丘四丁目 10 月 11・12 日 松ケ丘 10 月 13 日 薬師台三丁目 10 月 13・18 日 けやき台六丁目 10 月 13 日 けやき台二丁目 10 月 13 日

オ　第４回講座　（実施日）平成２７年１０月２０日（火）

内容	講師	準備物等
防災マップを作成する ～防災マップの作成方法について学び,地域情報を利用して防災マップ（PC，紙）を作成する	国立研究開発法人防災科学技術研究所研究員	講義資料 PC・プロジェクター 班別ＰC5台 プリンター 写真データ 写真票 項目整理シート まちあるき地図 地図（A0） シール ラインテープ サインペン

時間	プログラム	展開のチェックポイント
10:30 （50 分間）	ｅコミ講習	サイト検索，アクセス，ログイン，諸々情報の検索，項目登録・追加・訂正作業の説明⇒ｅコミシステム操作の会得
11:20 （65 分間）	防災マップ作成 ・紙ベースの防災マップ作成	写真帳票の選別及び項目整理シート内容の転記，紙防災マップへの貼付 ⇒紙防災マップ作成手法を理解
	・ｅコミ防災マップ作成	項目整理シートにより情報項目を追加し，地図上に登録 ⇒ｅコミシステムによる地図作成手法を理解
12:25 （5 分間）	次回までの宿題事項及び次回講義の説明	紙マップ及びｅコミマップを次回までに完成させることについて説明 ⇒センター長から，作成場所として市民活動支援センターが利用できる旨の説明

カ　第５回講座　（実施日）平成２７年１０月２７日（火）

内容	講師	準備物等
防災マップを活用する ～防災マップを活用方法について学び，今後の防災活動の計画作成に防災マップを活用する～	国立研究開発法人防災科学技術研究所研究員	講義資料 PC・ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾀｰ 班別ＰC5台 プリンター 写真データ 項目整理シート 防災活動計画シート 地図（A0）

時間	プログラム	展開のチェックポイント
10:30 （35 分間）	防災マップの活用方法を学ぶ	防災マップの具体的な活用事例を説明 ⇒県内外各地の事例紹介の中で地域団体との連携方法等を理解する
11:05 （40 分間）	防災活動を計画する	受講団体毎に，今後の地域防災活動計画を検討 ⇒防災マップの活用を通じて地域防災活動の継続意識を醸成する
11:45 （25 分間）	グループ発表 （防災マップ及び防災活動計画）	受講団体毎に，地域背景を踏まえ，防災マップ及び防災活動計画を発表 ⇒発表及び防災活動計画シートコピーを全団体に配布することで，全員で全地区の活動計画を共有。
12:10 （5 分間）	講評，今後のｅコミシステム運用説明	今後のｅコミシステム運用を地域で行うこと，活動記録をブログ形式で掲載・更新できることについ

		て説明 ⇒地域防災活動にｅコミシステムを継続活用できることについて理解

（８）事業を実施するために工夫した点

コース設計の大目的を，地域課題に取り組むための市民意識及び地域力の向上とし，「受講終了 ＝ 学びの終了」とならないよう，地域及び市の喫緊の課題である「防災」というテーマに絞り込んだ。

コース構成については，協議の段階から，防災に関する関係各機関（関係課，市内団体）にメンバーに入っていただき，適宜助言をいただきながら内容を検討・確定し，受講生に提供する情報等について協力いただける関係作りを図った。

また受講については，終了後も「地域活動」として継続してもらえるよう，個人ではなく地域団体レベルでの応募及び受講形式としたほか，受講団体構成員間のコミュニケーションが十分に図られるよう，コース内にワークショップや自主学習期間を取り入れた。

最終講義時には，受講成果として完成する「地域防災マップ」と「防災マップ作成システム（ｅコミュニティ・プラットフォームシステム）の活用計画を発表する機会を設けるとともに，茶話会を開催して受講団体間での情報共有と交流の機会を提供し，地域活動意識の高揚に努めた。

（９）成果

もりや市民大学で過去２年実施した防災コースは，受講者を個人としていたため，地域での具体的な活動につながらないという課題があったが，コース終了時に聴取したアンケート結果からは，「作成した防災マップをどのように活用したいと思いますか」という設問に対して，「活用できない」と答えた受講生（団体）はいなかった。最終講義時にも，今後の防災活動計画が時系列で明確に提示され，今回コースの実施は地域活動継続の一助となったと言える。

また，コース前後のアンケート結果の比較から，これまで行政や地域の防災訓練に参加したことがなかった受講生が，コース終了後は，今後は同上防災訓練に「参加したいと思う」に転じているほか，発災時に取り組んでおくべき対策として「地域の危険な場所の把握」，「地域の要援護者等の存在の把

握」,「初期消火のための準備」の３項目を「必要なことで取り組んでいる」とする層が増加したことが分かる。同じく発災時に取り組んでおくべき対策として,「地域の危険な場所の把握」,「危険・修繕箇所への対応方法等の確立」,「災害発生時,他団体等との調整方法等の確立」と「必要物資の把握・調達方法等の確立」については,「必ずしも必要とはいえない」としていた層がゼロとなっている。さらに,近所の人を助けられる自信があるかという問いについて,コース実施前は「ない」「分からない」が 64.3%と圧倒的であったのに対し,終了後は「いいえ」がゼロ,「はい」が 8 割以上となったことからも個人意識の大きな変容がうかがえ,講義を通して地域の状況把握と発災時の想定被害等が正しく伝えられたことが分かる。

（１０）課題

今回コースで利用した「ｅコミシステム」は操作性に優れており，仕組みが分かれば比較的扱いやすいシステムではあるが，日常生活でＰＣを扱うことがない方にとっては，敷居が高い内容であることは否めない。また，講義会場のネット環境により，受講生一人一人に十分な研修を行えなかったこともあり，コース終了後にシステムを継続利用しようという機運は，想定していたより低いように感じられる。ＰＣ操作に堪能な方が多いと考えられる若い世代の取込みが，今後大きな課題である。

自治会・町内会役員や，自主防災組織担当者が１年交代である地区が多いという現状も，地域防災活動の十分な引継ぎと継続的なシステム更新体制の確保を阻む原因となっている。これは，市の多くの自治会・町内会に共通する構造的な問題であるため，今回コースのみの課題とは言えないが，今回コースの受講が，組織内部で，防災活動団体は自治会・町内会とは別組織にする等の対策を検討する機会となり得る可能性がある。

また，今後，受講団体が「ｅコミシステム」を利用して地域防災活動を継続する場合，その活動が軌道に乗り，自立状態に至るまでは，システム利用や地域防災活動内容に関する支援を継続的に行う必要があるほか，地域防災活動の継続意志が低下しないよう，定期的に連絡を入れる等の対策も必要であり，実施主体側の支援体制確立も課題と言える。

（１１）今後の方向性

コース終了後，今回コースで学んだ内容（地域状況の把握，防災マップづくり，ｅコミシステム操作，マップを活用した地域防災活動事例等）を生か

した地域防災活動の展開と，他地区への拡大を図るため，事務局として今後どのような活動をすべきかについて，講師及びコース担当者との打ち合わせを行った。その結果，国立研究開発法人防災科学技術研究所の御協力をいただき，下記のとおり受講団体のフォローアップと他地区波及対策を講じることとなった。

・ｅコミシステム操作講習会及び相談会（12 月・1 月に実施予定）　⇒ｅコミシステム更新及び活用促進

・受講団体活動内容の発表会及びｅコミシステム活用事例の紹介機会の設定（実施時期未定）　⇒継続意識の醸成と地域防災活動の発展，全市的な拡大

・未受講地区からのｅコミシステム利用希望の受付対応　⇒全市的な拡大

・必要に応じた，市保有関連情報の提供　⇒地域防災活動発展

・同様コースの再実施　⇒全市的な拡大

併せて，今回コースの受講団体に対して追跡調査を行い，活動の継続を確認するとともに，未受講地区との比較調査を行うことで，活動内容の発展性を検証する（追跡調査のタイミングは今後協議して決定予定）。

これらの結果から，市が，地域防災活動の充実，発展のためのツールとしてｅコミシステムを独自に導入すべきかどうか，関係課と協議していきたい。

（１２）参考資料

守谷市の概要	
人口	65,367 人　（住民基本台帳：平成 27 年 12 月 1 日）
面積	35.71 ㎢
世帯数	25,405 世帯　（住民基本台帳：平成 27 年 12 月 1 日）
公民館の数	5 館
市民センターの数	なし　※市民公益活動支援拠点施設は 1 館あり

実施主体の概要（団体名：もりや市民大学　）
運営主体：もりや市民大学運営委員会 構　　成：市民及び市職員（学識経験者 1 名，市民公益活動団体 7 名，公募市民 7 名，行政職員 5 名） 事 務 局：守谷市役所生活経済部市民協働推進課 事業概要：「協働のまちづくりの担い手」を育成することを目的とし，市民に対して，様々な分野のまちづくり活動に必要な知識や技能を学ぶ場を提供

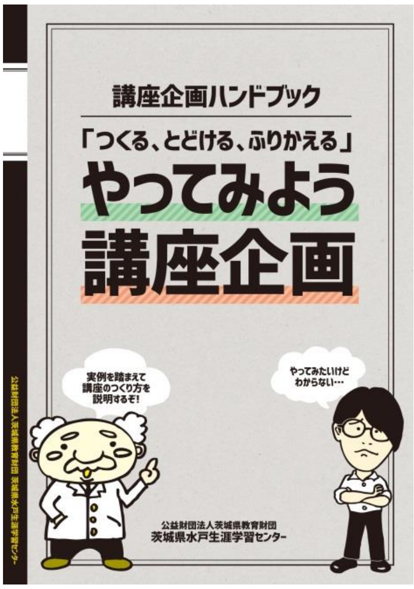
する。平成 24 年 10 月開校以来，年度を前期後期（6 月～・11 月～）に分け，市についての情報を学ぶ「総合コース」と，分野を特化したまちづくりについて学ぶ「専門コース」の 2 体系でのコース設計を行っている。
※上記 2 コースのほか，大学体験及び事業周知を目的とした「オープンコース」,「公開講座」も開催
※外部連携：コース設計時に適宜，庁内関係部局及び市内外団体等に協力を依頼
※総合コース連携先：行政職員，市内活動団体及び事業所，先進事例団体
※専門コース連携先：行政職員，大学・専門機関・各種団体等職員
ＵＲＬ： http://moriya-cc.com/

（１３）写真資料

地域課題の把握	災害対策シートの作成
現地調査実習	ｅコミマップの作成

Ⅲ　ハンドブックの作成の実際

１　ハンドブック作成の経緯



平成２６年度の生涯学習調査研究事業で行った「公民館・市民センター等」の実態調査の中で，講座の企画について悩みを持っているという声が多く寄せられた。特に定期異動がある行政管轄の公民館・市民センター等では，講座企画に携わったことがある職員が必ずしも配置されるとは限らず，さらには職員数の減少により，講座企画に携わる人員も減少している。そこで，本事業では，講座企画者が必要となる基礎的な知識・技能を身につけることができるハンドブックを作成することとした。さらに作成後に普及，活用することで，今後，様々なモデルプログラムを開発・提案した際に，初めて講座企画に携わることになった現場の職員の方々にもモデルプログラムを実施してもらえるよう，講座企画・運営の一助になれるハンドブック作りを目指した。

２　ハンドブック内容

編集部を中心に内容の検討を重ねた。作成するにあたり留意した主なポイントは以下の通りである。

・ターゲットは講座企画初心者とする。
・これまで講座企画を経験したことがある人には，自分の取り組みのふりかえりができるようにする。
・一部，直接書き込めるような内容とする。
・PDCA サイクルの講座企画のプロセスをベースとした内容構成とする。
・中級者以上にはステップアップにつながるような情報も掲載する。
・実際の講座事例も掲載する。
・文例集など実際に必要な様式はダウンロードして活用できるようにする。
・全体的には，誰でも馴染みやすく，日頃から近くに置いてもらえるようなデザインを心がける。

３　完成仕様　　Ａ４サイズ中綴じ　３６ページ（発行　平成２８年３月）

Ⅳ　成果と課題

1　成果

・モデルプログラムの開発では，事前打ち合わせから当日まで，それぞれの市町村に足を運ぶことで，学習相談機能を発揮することができた。

・市町村の職員の方と連携することで，モデル講座の企画立案からハンドブックの内容検討まで現場の生の声を反映しながら事業を進めることができた。

・モデルプログラム作成については，必ずしも成功事例ばかりではなかった。本書ではそれをありのままに記載している。失敗事例はハンドブック作成において参考になった。なお，ハンドブックには，プログラムの普及活用のため実践した３市町村のモデルプログラムの実践例を再構成し掲載した。

・ハンドブックの内容は公民館の講座企画者だけでなく，イベントや講演会など様々な学習プログラムの教科書として使うことができる内容を掲載することができた。

・学習プログラム開発委員会での情報共有の時間が，委員同士の刺激となり資質向上につながった。

2　課題

・作成したハンドブックの普及・活用の仕方

・公民館や市民センター等への学習支援・学習相談の充実

・ハンドブックを普及させる人材の養成

・ハンドブックを活用した新たなモデルプログラムの開発

平成 27 年度 生涯学習調査・学習プログラム開発事業

学習プログラム開発実践報告書

平成 28 年 3 月発行

編集・発行：公益財団法人茨城県教育財団　茨城県水戸生涯学習センター

〒310-0011 茨城県水戸市三の丸 1-5-38 茨城県三の丸庁舎 3F

TEL.029-228-1313　FAX.029-228-1633